



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年07月04日 第1075号「週刊五十嵐レポート」

## 弱者は調子に乗るな

社長塾の勉強会にて、「業績不振の6つの原因」を学んだ。

1. 利益性の善し悪しが決まる利益性の原則を知らないで経営をする。
2. 戦略と戦術の区別がつかず、繰り返し作業の戦術が経営だと思っている。
3. 営業戦略と販売戦術の区別がつかず、販売戦術だけ行っている。
4. 強者の戦略と弱者の戦略の区別がつかず、強者の戦略で経営している。
5. 簿記(会計)が分からず、経営データを理解できない。
6. 会社の規模で変わる社長の役目が分かっていない。

日々の企業経営をしていると、戦略と戦術がごちゃ混ぜになってしまう。意識しないと戦略と戦術を区別できない。油断すると、社長の役目も見えなくなっていく。繰り返し汗をかいている仕事が社長の仕事だと勘違いしてしまう。

また、業績が良くなっていくと、ついつい社長の気が大きくなり、車を高級車に買い替えたり、自社ビル(不動産)など粗利益の生まない物を購入する。

飲食業を営んでいるある社長は、コロナ禍で営業利益の段階では赤字だが、支援金等のお陰で税引き前当期利益では大幅な黒字を計上した。自社で稼いだ利益出ないのに、高級車を買って、社長仲間に見せびらかす。店に行くと、商品やスタッフのサービスもあまり良くない。先が思いやられる。

競争条件の不利な小さな会社(弱者)はちょっと業績が良くなっても、「調子に乗るな」「小さな成功で経営内容を変えるな、生活を変えるな」ということになる。

自分の弱点は会計が分からない、決算書を読めないと自覚している社長がいる。簿記3級を学んで、試験を受けた。試験に受かる受からないは別にして会計の基礎を学ぶことは社長として大事なこと。京セラの創業者稲盛和夫氏の著書「実学」では会計(簿記)を知らない本人が学んでいく姿がある。

日々時代が変化する。社長は学び続けていかなければいけない。そうしないと生き残り続けることは難しい。裏を返せば、経営は面白いということ。

ちょっと  
気になる出来事

6月23日付朝日新聞「音楽の聴き方、激変の20年」という記事。

スマホの登場は、音楽の聴き方を決定的に変えた。昨年12月の日本レコード協会の12~69歳を対象とした音楽を意識的に聴いた層のうち、CDを聴いた人は25%にとどまった一方、サブスクを使った人は30%、YouTubeを使った人は45%に上った。

CD需要の落ち込みによってコンポは低迷した。2014年にはオーディオ御三家の一つ、山水電気が破産するなど、国産メーカーは苦境に立たされた。今年6月には御三家の一つ、オンキョーホームエンターテインメントが自己破産の手続きをした。残る御三家の一つ、パイオニアはオーディオを売却し、カーナビ等にシフトし現存している。

40年前、私はコンポで音楽を聴いていた。山水、オンキョー、パイオニア等の商品を繋げながらコンポを作っていた。技術革新の変化とともに企業は栄枯盛衰。現在はコンポもなく、スマホやパソコンから音楽を聴いている。かろうじてあるのは、レコードプレーヤー。今でもニューアルバムをレコードで販売しているアーティストがいる。

企業が存続する難しさを物語っている。



一口メモ  
知識

## 姓名を正しくす

おのおの姓名を正しくし、大和(だいわ)を保合(ほうごう)するは、すなわち利貞(りてい)なり。

天道の働きに養われ、生きとし生けるものはそれぞれ、生まれながら持っているもの(性)と、天から授けられた天の働きと同じ力(命)を活かして、物事を成就する。

「大和を保合する」とは、大きな調和を失わないこと。個々がそれぞれに、男子たらんと、母たらんと、教師たらんと自分に与えられた天賦・職分を果たす。これこそ正しく宜しい道であり、それが世の調和を保つのである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5  
TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

